

[令和5年度]

**【東京都地域医療構想調整会議】**

『会議録』

**〔南多摩〕**

令和5年5月12日 開催

# 【令和5年度東京都地域医療構想調整会議】

## 『会議録』

### 〔南多摩〕

令和5年5月12日 開催

## 1. 開 会

○奈倉課長：定刻となりましたので、令和5年度東京都地域医療構想調整会議、南多摩を開催いたします。本日は、急な開催にもかかわらず、またご多忙のところ、ご参加いただきまして、まことにありがとうございます。

議事に入りますまでの間、私、東京都福祉保健局医療政策部計画推進担当課長の奈倉が進行を務めさせていただきます。

本会議は、Web会議形式で開催いたしますので、送付いたしました「Web会議参加にあたっての注意点」をご一読いただき、ご参加いただきますようお願いいたします。

また、本日の配布資料については、事前にメールで送付させていただいておりますので、各自ご準備をお願いいたします。

なお、本日午後に、追加の資料もお送りしておりますので、そちらも併せてご準備いただければと思います。

次に、本日の会議の開催経緯に関して、予め申し上げます。

後ほど詳細をご説明いたしますが、本日の会議は、3月29日に開催した令和4年度第3回医療審議会において、小林審議会会長から開催のご提案があったことを受けて、開催するものでございます。

それでは、開会にあたり、東京都及び東京都医師会からご挨拶を申し上げます。まず、東京都福祉保健局医療政策担当部長の岩井よりご挨拶申し上げます。

○岩井（東京都福祉保健局医療政策担当部長）：皆さま、こんばんは。4月1日付で、鈴木の後任として、医療政策担当部長に着任いたしました岩井でございます。

構成員の皆さま方におかれましては、お忙しい中、また日中の診療業務等のお時間帯にご出席を賜りまして、まことにありがとうございます。

また、本日の開催に向けまして、さまざまな点でご協力を賜りました、座長の田村先生、副座長の安藤先生、また、八王子市の医療機関の皆さま方を初め、関係者の皆さまにお礼を申し上げます。

本日の会議では、令和4年度病床配分申請のうち、町田市での新規病院開設を希望する、医療法人泰一会の案件につきまして、これまでの調整会議や分科会を補足する意見交換を行います。

限られた時間ではありますが、本日の意見交換を通じまして、南多摩圏域の関係者の皆さまと病床配分申請者である、医療法人泰一会の間で、今後の関係構築を進めるための第一歩の会になればと思っております。

どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

○奈倉課長：ありがとうございました。

続いて、東京都医師会、土谷理事、お願いいたします。

○土谷理事：皆さん、こんばんは。東京都医師会の土谷です。担当理事をしています。

東京都では、地域医療構想調整会議は、年に2回ずつ行われてきましたが、先ほど、東京都さんから説明がありましたとおり、今回は、臨時の会議になっています。

地域医療構想そのものは、病床配分に注目が集まりがちですが、狙いは大きく2つあります。

1つは、もちろん、病床配分についてですが、もう1つは、地域内での医療連携についてで、この2つが大きな柱になっています。

東京都においても、病床配分を毎年やっていますが、それと同時に、地域での医療連携が進むようにということで、最近ではコロナに対応するためにやってきました。

そして、前回の調整会議では、コロナが終わったあとの医療連携がどのように深まっていくかということで、高齢者救急を中心に話し合っていました。

今回は、南多摩の圏域での病床配分について、さまざまな方の思いが交錯しているところですので、それが少しでもときほぐれて、地域でのよりよい医療が提供できるように、皆さんで協力できるようになればと願っております。

きょうはいろいろなお話が出るかと思いますが、どうぞよろしく願いいたします。

○奈倉課長：ありがとうございました。

続いて、事務局から何点か連絡事項を申し上げます。

まず、本会議の構成員については、お送りしております名簿をご参照ください。

なお、事務局の東京都からは、医療政策部長の遠藤、医療政策担当部長の岩井のほか、地域医療構想及び病床配分を所管する課長、担当職員が出席しております。

次に、本日の会議の取扱いについてですが、公開とさせていただきます。

傍聴の方々につきましては、既にWebでご参加いただいておりますが、ここで、傍聴の方々にお願いがございます。

本日は、南多摩圏域に限らず、非常に多くの医療機関の方々が傍聴されていることもございまして、時間も限られておりますので、大変恐縮ではございますが、ご発言は構成員の方々をお願いしたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

次に、会議録及び会議に係る資料についてでございますが、後日公開いたしますので、よろしくお願いいたします。

最後に、議事の流れについてご説明申し上げます。

初めに、東京都から、これまでの経緯等をご説明いたしまして、その後、医療法人泰一会から、病床配分希望に関する補足のご説明をしていただき、そのあと、関係者間の意見交換を行うということを考えております。

それでは、これ以降の進行を田村座長にお願いいたします。

## 2. 議 事

## 病床配分希望について

○田村座長：皆さん、こんばんは。座長の、多摩市医師会の田村でございます。

それでは、早速、議事の「病床配分希望について」に入りたいと思います。

まず、東京都から、これまでの経緯と本日の会議の開催趣旨等について、ご説明をお願いいたします。

○東京都（事務局）：皆さん、こんばんは。東京都福祉保健局医療政策部医療安全担当課長の白井と申します。

私から、資料1に沿いまして、これまでの経緯と本日の開催趣旨についてご説明申し上げます。資料をご覧ください。

南多摩圏域における病床配分についてでございますが、令和4年度は、基準病床の1万1381床と、既存病床の1万755床の差である626床について、病床配分の募集を行ったところでございます。

そうしましたところ、八王子市から1件、町田市から2件の、計3件、267床の申請があり、八王子市及び町田市での地域医療構想調整会議分科会、及び南多摩圏域の地域医療構想調整会議において、各申請者から申請内容の説明を受け、関係者間の意見交換を行ってきたところでございます。

1月23日開催の、地域医療構想調整会議における意見交換におきましては、医療法人泰一会による、町田市相原町での一般病床200床の新病院開設に係る配分申請について、予定地は、八王子市に隣接する町田市西北部に位置し、診療圏は町田市より八王子市の病院となること、開設希望の200床は、患者の受療動向の変化、医療従事者の確保などの面から、既存病院への影響が懸念されることなどのご意見がございました。

そのため、田村座長から、「申請者は、八王子市の医療機関と意見交換をして理解を深めていく必要がある状況ではないか。意見交換をしっかりとしながら、準備を進めていかれるのがよいのではないか」とのご提案がございました。

その後、3月27日、八王子市医師会病院部会におきまして、医療法人泰一会が出席され、八王子市の各病院からの質問に回答する形式で、意見交換を行ってきたところでございます。

そして、3月29日、東京都医療審議会において、全圏域における病床配分案と、地域における意見交換の状況を報告したところ、小林審議会会長から都に対し、「改めて、南多摩圏域の地域医療構想調整会議を開催し、関係者が意見交換を行い、医療審議会に報告するように」とのご提案がございました。

審議会会長からのご提案を受け、都は、中立的な立場から、個別に各関係者のお話をお聞きし、地域医療構想調整会議が建設的なものとなるよう調整を続け、関係者のご理解、ご協力を得まして、本日の調整会議の開催となりました。

本日の目的でございますが、医療法人泰一会が整備予定の病院につきまして、南多摩圏域関係者の皆さまと医療法人泰一会との間で、一定の認識共有や相互理解を図り、今後、自主的、継続的な関係構築を進めていただくための道筋をつけることと考えております。

そして、本日の意見交換の状況を踏まえ、病床配分について、医療審議会に報告していく予定でございます。

私からは以上でございます。

○田村座長：ありがとうございました。

このあと、医療法人泰一会さんからのご説明をお願いする予定でございますが、それに先立ちまして、本調整会議の副座長であり、八王子の病院事情に非常にお詳しい安藤先生に、コメントをいただけたらと思います。よろしく願いいたします。

○安藤（副座長・東京都病院協会代表・八王子市医師会理事・永生病院理事長）：発言の機会をいただき、どうもありがとうございます。

座長や東京都の方々から今お話があったように、先般の八王子市医師会の病院部会から今までの間、八王子市医師会といたしましても、多くの議論を重ねてまいりました。

八王子市医師会としても、地域の医療の状況をきちんと見据えて、地域にとって必要な医療を提供していただける医療機関であれば、ぜひとも一緒にやっていきたいという考えは、これは、以前からのさまざまな法人さんとの間でも、同じようなスタンスでございます。

今回の泰一会様についても、同じような考えですので、この地域の医療をどう捉えて、何が不足しているとお考えで、今後どんな医療を提供して、地域に貢献していきたいのかということ、泰一会様からしっかりお話を伺った上で、建設的な議論を行っていきたいと思っております。

本日は大変期待をしておりますので、どうかよろしくお願い申し上げます。

○田村座長：ありがとうございました。

それでは、安藤副座長からのお話もありましたが、ぜひそういった点を踏まえて、泰一会様からご説明をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○永井（医療法人泰一会 理事）：医療法人泰一会の理事をさせていただきます永井と申します。よろしくお願いいたします。

今までの医師会様とのいくつかのお話の中で、質問されたことについて、補足説明をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

## 1. 病院の整備計画の概要について

建設予定地において提供する予定の医療内容について

### ①診療科目

整形外科、内科、外科、脳神経外科、麻酔科、リハビリテーション科

開院当初は整形外科3名、内科1名、外科1名、脳神経外科1名、麻酔科1名、リハビリテーション科1名の常勤医を予定しています。加えて非常勤医師を雇用します。法人のベースが整形外科なので、整形外科を中心とした医療を予定しています。

### ②病床数

急性期130床、回復期70床（2病棟）

急性期130床、回復期リハビリテーション病床70床を予定しています。急性期病床の2分の1の65床は整形外科疾患を想定しています。回復期リハビリテーション病床は、新病院急性期病床からの転ベッドを見込んでいます。

依頼があれば他院からの受入れもさせていただきます。

残りの65床については、医師の採用状況にもよりますが、地域のニーズに合わせて必要とされる医療を提供することを考えています。

### ③当初開設時点から200床稼働までのプラン

#### ○段階的な病床開設スケジュール

令和8年4月に整形外科疾患を中心とした、急性期35床で開業する予定です。休日夜間救急対応については、当初は1系統で始める予定です。スタッフの習熟や患者様の増加に伴い、8月に50床に増加します。その後、開院後1年で135床、1年6か月で200床となることを見込んでいます。

○想定している医療提供内容(この地域で特に力を入れていきたい診療領域、疾患など)

整形外科を中心とした、2次救急レベルまでの疾患を想定しています。

現在、東村山市にある多摩北整形外科病院では、開放性骨折(ガステイロ分類のタイプ2以下)の緊急手術が必要な症例だけでなく、椎体骨折や腰痛などの保存療法なども積極的に受け入れており、新病院においても同様に救急患者の受入れを行う予定です。

休日や夜間の診療にも対応します。また、救急搬送を保険の種類・年齢・既往症などで選別することはいたしません。

### ④地域との連携について

#### ○町田市医師会や近隣の関係機関との連携について

病院運営では近隣病院との連携が大切と考えており、町田市医師会・八王子市医師会・多摩市医師会に加え、相模原市・日野市・稲城市の医師会とも連携をとっていききたいと考えています。

#### ○近隣の医療機関との連携について、具体的にどのように考えているのか

(上りの場合・下りの場合)

紹介をいただいた患者様に関しては、治療終了後には地域のクリニックや病院に戻させていただきます。当院からお願いした患者様は、依頼先の病院での治療

が終了した段階で受け入れる予定です。八王子市の近隣の医療機関とも密に連携させていただければ幸いです。

新病院にて治療が困難な場合には、近隣の大学病院を初め、地域の医療機関の皆さまと連携させていただき対応していきたいと考えています。

最終的には南多摩医療圏で連携関係を構築し、一緒に地域医療の向上に努めていく所存です。

#### ○地域に不足している医療提供について(小児医療等)

小児の外傷は積極的に受け入れます。当医療法人の多摩北整形外科病院では、24時間365日、年齢に関係なく診療しています。

東村山市の小中学校や幼稚園や保育園などと、【けがホットライン】という取り組みを実施し、救急隊を介さずにダイレクトに連携がとれています。地域のニーズに合わせて同様の取り組みを構築していくことを考えています。

#### ○開設までの間、近隣の医療機関との意見交換に関して

地域の状況を鑑みながら、必要性に応じ意見交換を行っていききたいと思います。

## 2. 町田市から要望のある災害時の対応について

### ①地域ではどのような役割を担っていく予定か

(開設時点及び段階的な開設スケジュールに応じて)

耐震構造を取り入れた建物を建築し、非常用電源を初め、水や食料等必要な物資を7日分程度備蓄予定です。また、災害時には町田市の地域防災計画に定められている役割を果たすことができる準備を行います。

自治体や地域医療機関と協力し、医療救護所の開設等の必要とされる役割を担い、南多摩医療圏の災害医療に貢献し、災害拠点連携病院としての役割を果たすことを考えています。年1回以上の訓練を予定しています。

### ②同一法人・病院グループにおける、災害医療に関わる取り組み状況

一例を挙げます。令和元年10月に台風19号の被害で川越市の老人保健施設が水没した際に、飯能整形外科病院から医師も含めた医療スタッフを派遣し、入所患者全員の救助活動を行いました。

### 3. 新興感染症に備えた取組みについて

#### ①地域でどのような役割を担っていくか

(開設時点及び段階的な病床開設スケジュールに応じて)

災害時や未知の感染症に対しても対応できる病院を想定しています。

構造上強固な建物を建築するとともに、42床(2病棟)の病室にへパフィルターや陰圧の設備を整えます。大部屋を個室化したり、病棟を区切ったりできる構造を考えています。エネルギー・水・食料などの備蓄を行い、物資の補給がなくても1週間は通常に稼働できる設備を建設予定です。

新興感染症が発生した場合は、地域と連携しながら、どのような貢献ができるのかを考えていきます。また、敷地内に駐車場を広く確保する計画です。例えば、その駐車場に検査場所を設置することで、地域の感染症対策に協力できると考えています。

#### ②同一法人・病院グループにおける新型コロナウイルス感染症に係る対応状況

当法人グループである埼玉県飯能靖和病院は、埼玉県における新型コロナウイルス感染症の重点医療機関に指定されています。

### 4. 医療人材の雇用について

#### ①開設当初の医師8人、看護師25人、薬剤師2人の採用ルートを具体的に

当法人は飯能整形外科病院・多摩北整形外科病院・和光リハビリテーション病院・多数の老人保健施設を運営しており、ここで育成した人材を中心に、開設する病院に派遣して運営していく予定です。

多摩北整形外科病院の開設時に、近隣の医療機関に勤務されている看護師さんから、就職の希望がありましたがお断りしています。地元の医療機関に勤務されていないスタッフは採用していく予定です。

②200床開院までの人員体制と採用ルート等を具体的に

当法人は飯能整形外科病院・多摩北整形外科病院・和光リハビリテーション病院・多数の老人保健施設を運営しています。ここで育成した人材を中心に、開設する病院に派遣して運営していく予定です。

当法人は大学のリハビリテーション実習の指定病院となっており、リハビリテーション実習生を受け入れています。リハビリテーション職員は法人内で100名以上の在籍者がおります。

当法人で看護学生に対し奨学金制度を設けており、新卒の看護師を一定数確保できます。また、給与については法人グループ内での統一を図る必要があることから、新病院だけ特別な給与水準で募集することはいたしません。

近隣医療機関の医療スタッフ不足や、給料相場の上昇には十分に配慮する予定です。

以上でございます。

○田村座長：ありがとうございました。

それでは、これから意見交換に移りたいと思いますが、まず、病院開設予定地の町田市からご発言の希望を承っておりますので、町田市の田中保健総務課担当課長、お願いいたします。

○田中(町田市保健所 保健総務課担当課長)：町田市保健所の田中でございます。

南多摩圏域における病床配分につきまして、資料1にもございますように、町田市の現状を踏まえまして、この場で発言させていただきます。

町田市相原町には、医療機関が少ないことから、相原地区の住民から、複数年度にわたって、医療体制の充実を求める意見をいただいております。

また、相原地区に災害拠点病院及び災害拠点連携病院が存在しないため、災害発生時の傷病者の医療救護に課題が残されているといった状況でございます。

そのため、町田市にとって、相原地区に日常的に救急患者の受入れができ、災害拠点病院として指定される可能性がある病院が開設されることは、地域医療の充実や災害時の対応の面からみて、非常に有益であると考えております。

なお、町田市医師会からは、病院の新規開設の間接的な影響として、近隣医療機関の看護師等の医療スタッフが不足するのではないかといった懸念が示されていることから、医療機関の申請者には、医療スタッフ採用の際に近隣医療機関への配慮をお願いしたく存じます。

町田市からは以上となります。どうぞよろしく願いいたします。

○田村座長：ありがとうございました。

それでは、これから意見交換を行いたいと思います。

東京都の事務局から先ほどお話がありましたように、今回、非常に多くの傍聴の方が参加されておりますが、時間も限られておりますので、ご発言は構成員の方をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

それでは、ご意見がある方はどうぞ挙手をお願いいたします。

右田先生、どうぞ。

○右田（右田病院 院長）：八王子市の急性期担当というところから発言させていただきたいと思います。

結論から言いますと、八王子市医師会としては、新規開設に関しては反対の立場をとるということなんです。

町田市さんからは、相原地区に医療機関が少ないということから、誘致を希望するというお話がありましたが、実際にどういった医療を必要としているのかというところを、はっきりしていただきたいと思います。

我々が反対している理由は、泰一会さんが整形外科を中心にやろうとしていらっしゃるのですが、場所的には、八王子市の医療活動にかなり近接した地域だからであります。

八王子市は、整形外科医療に関しては、不足していないという認識でおりますので、整形外科を中心にした医療を展開しようとしていることに関しては、スタッフの取合いとか、患者さんの取合いとかいった、過度な競争が起こるのではないか、混乱を生むのではないかとということを危惧して、反対をしております。

ですから、「医療機関が少ないから来てほしい」ということではなくて、実際に何の医療が不足して、どういう医療をしてもらいたいのかということが、重要な

ポイントになりますので、整形外科だけで始めるということに関して、もう少し柔軟に考えていただけないのかというような点について、泰一会さんにお伺いしたいと思います。

○田村座長：ありがとうございました。

泰一会さんからの先ほどのご説明の一部にも、そういう内容があったかとは思いますが、今のご質問に対してご発言がありましたらお願いいたします。

○永井（医療法人泰一会 理事）：相原地区には医療機関が少ないので、そこに誘致があったということと、基本的には、整形外科を中心とした救急医療を行う予定です。

あとは、患者さんのニーズに応じて、地域のニーズに合わせて、臨機応変にやっていきたいと思っております。

○田村座長：今のご質問の中に、八王子まで含めると、病院数はかなりあるのではないかということと、整形外科のニーズがもう十分足りているという認識が、ご質問の中であったと思いますが、泰一会さんとしては、その辺についてはどうのご認識をお持ちなんでしょうか。

○永井（医療法人泰一会 理事）：実際に救急車で八王子のほうからも、私が今勤務しているのは東村山市で、多摩北整形外科病院というところですが、ここにも患者さんが来られていますので、少ないのではないかという認識は、少しあります。

○田村座長：八王子市の北部のほうから、救急車が来るということですか。

○永井（医療法人泰一会 理事）：すみません。「八王子のどこから」というデータは、今はありませんが、八王子の救急隊が来られています。

○田村座長：先ほどのプレゼンを聞いている中で、病院の新設地点を中心に円をかきますと、ほぼ半分以上が八王子市で、相模原市も含まれていますので、そういったところまで含めて、整形外科のニーズがあるのかなとお考えになっているかと思いました。

それから、診療の内容についてです。同じ整形外科でも、例えば、開放骨折を診られるかどうかという点についてなどは、割合重要な点だと思いますが、その辺はいかがでしょうか。

○永井（医療法人泰一会 理事）：開放骨折には「ガスティロ分類」というのがありまして、「type I, II, IIIA, IIIB」とありますが、IIIのA、Bは、血管がないとか、組織がないとかいうものですので、それは、大学病院とかの大きな病院のレベルでしか診られないと思います。

普通のピンホールとか、type II ぐらいまでであれば、普通に診療することができると思っています。

また、「地域で患者さんの取合いになってしまう」というお話が、少し出ましたが、今後は高齢者の患者さんは増える地域と考えております。

あと、その地域には災害拠点病院とか災害拠点連携病院がないので、そういう役割ができたらなと思っております。

○今村（医療法人泰一会 事業部長）：すみません。補足説明をさせていただいていいでしょうか。

○田村座長：どうぞ。

○今村（医療法人泰一会 事業部長）：医療法人泰一会の事業部長をしております今村と申します。よろしく願いいたします。

医療法人泰一会は、整形外科が主体で成り立っているところもありまして、主科としては整形外科をやっていくというところを考えております。

ただ、先ほどご説明いたしました残りの65床については、地域の医療ニーズに合わせて、今後必要とされる医療を提供できればということを、泰一会の中で話し合っております。

ですので、その部分については、地域の方々と医療連携をしっかりと、先生方とお話ししながらやっていきたいと考えております。

○田村座長：残りの半分の65床は、地域のニーズに合わせるということですが、その地域ニーズはきっとあるだろうという前提でお考えになっているということですね。

○今村（医療法人泰一会 事業部長）：はい、そうです。

○田村座長：ただ、先ほどの八王子の先生のお話では、地域のニーズはもう十分足りているというご認識だったかと思いますが、泰一会さんとしては、「まだニーズがあるに違いない」といったご認識ということですね。

○今村（医療法人泰一会 事業部長）：はい。八王子市の先生方はそう思われているという認識はしております。

ただ、町田市と話をさせていただいたりということもあって、総合的に勘案して、ニーズはあるのではないかと、我々としては感触を持っております。

○田村座長：ありがとうございました。

それでは、ここで、土谷理事、お願いいたします。

○土谷理事：東京都医師会の土谷です。

開設時の予定の中で、脳神経外科と外科の先生が1名ずつおられるようになっていますが、脳神経外科については、どの程度やっていく予定でしょうか。

八王子市医師会の皆さんは、「脳神経外科であれば、ぜひやっていただきたい」とか、「脳神経外科ももう間に合っている」ということでしょうか。

そのあたりで、双方からご意見をいただければと思います。

○田村座長：では、泰一会からお願いします。

○永井（医療法人泰一会 理事）：外傷となると、整形外科だけで済むという症例は、実は少なく、例えば、バイクで転んだ場合、足が開放骨折になっていて、頭も打っているというような状況が、かなり想定されます。

ですので、脳神経外科専門の腫瘍をやるということは、全く想定していませんので、外傷に伴う軽微な、硬膜下血腫など、1人である程度対応できる範ちゅうが、当初の予定です。

そして、その後も、そんなに大きくする予定は、多分ないと思いますが、ニーズに応じてやっっていこうと思っております。

○土谷理事：八王子の方々は、脳神経外科についてはいかがでしょうか。

泰一会さんからは、外傷に伴うものを診ていくということでしたが、八王子さんからは、「もっと脳卒中とかも診てほしい」とかいったご要望はありますでしょうか。

○田村座長：右田先生、お願いします。

○右田（右田病院 院長）：データを余り持っていないので、個人的な意見になってしまいますが、八王子市内は、脳神経外科の治療を行っているところが複数ありますので、受入れに困るということは余りないですね。

今のお話を聞くと、整形外科の診療をやっていく上で、確かに、外傷をやっていますと、頭を打撲したので、脳神経外科の先生にお世話になることはありますが、脳神経外科の積極的な治療をするおつもりではないと聞こえたので、その辺に関して、こちらから「脳神経外科の治療をやってほしい」という要望を出すものでもなく、八王子市内で完結できるだろうと、個人的な意見ですが考えております。

○田村座長：ありがとうございました。

○土谷理事：了解です。

○田村座長：町田市の医療機関、ご関係の方で、今の議論について何かご意見はございますか。

先ほどご説明いただいた田中課長さん、町田市の立場で何かコメントはございますか。

○田中(町田市保健所 保健総務課担当課長)：今のところ、特にはございません。

○田村座長：分かりました。

安藤先生、どうぞ。

○安藤(副座長・東京都病院協会代表・八王子市医師会理事・永生病院理事長)：

肌感覚ということもあるかと思いますが、DPC病院も非DPC病院もありますので、そういうところのデータを積み上げていって、本当に必要なのかどうかということを、科学的、合理的に詰めていく必要があるのではないかと思います。

以前、データを見た中では、脳外に関しては、八王子のDPCデータからいうと、結構もう充足しているのかなということがありましたが、今はどうなっているか興味がありますので、そういうところを今後また詰めていくことが大事になっていくと思います。

○田村座長：ありがとうございました。

ほかにいかがでしょうか。

町田市民病院の金崎先生、いかがでしょうか。何かコメントがありましたらお願いしたいと思います。

○金崎（町田市民病院 院長）：いろいろな条件についてまだまだ分からないところがありますので、今のところ、コメントといったはっきりしたものはございません。

○田村座長：ありがとうございました。

ほかにいかがでしょうか。

陵北病院の田中先生、どうぞ。

○田中（陵北病院 院長）：八王子の慢性期担当の、陵北病院の田中です。

繰返しの話になってしまいますが、クリニックを開くにしても病院を開くにしても、「診療圏調査」というものをすると思います。

泰一会さんのお話では、「町田市で」「町田市で」ということをお伺いしましたが、前回もお話ししましたが、開設予定を中心にして、コンパスでぐるっと回して、5キロ圏内を見てみると、救急病院と病院が十いくつかぶる地域になっています。

また、救急が不足しているかということで行くと、南多摩医療圏が高度急性期や急性期の自己完結率が、都内でも低いということは認識しております。

ただ、八王子はどうかというと、八王子独自のデータは持っていませんが、令和2年から3年を通してみても、八王子市は“東京ルール”の発生率が都内よりも低く、南多摩医療圏の中でも半分近い状態で経過しております。

つまり、“東京ルール”の発生率が一つの指標になるかと思いますが、八王子市は救急としてもかなり連携がとれていると言えます。しかも、繰返しになりますが、整形外科に関しては供給が足りている地域であると言えます。

そういう中で、泰一会さんのお話を伺っていると、整形外科を中心として、災害拠点病院、災害拠点連携病院にし、小児や脳外科も対応されるということで、素晴らしい内容だとは思いますが、連携がうまくいっている八王子とくっついているところに、新しい病院をつくるということは、もともとの地域医療構想という趣旨に照らし合わせても、違和感があります。

さらに、南多摩医療圏全体でいうと、先ほどお話ししましたとおり、自己完結率が低いわけですから、もっとニーズのあるところでされたら、とても地域のためになるのではないかと思います。

これは、質問でもあり感想でもあるんですが、いかがでしょうか。

○田村座長：ありがとうございました。

泰一会さんから何かございますか。

○永井（医療法人泰一会 理事）：大変勉強になりました。ありがとうございました。

ニーズに応じながらやらせていただければと思っております。

○田村座長：私からの質問ですが、今度の新病院で患者さんを実際にカバーする診療圏というのは、どれぐらいの地域をお考えになっているのでしょうか。

○永井（医療法人泰一会 理事）：基本的には相原地区を中心に考えております。あとは、救急搬送に関するところが主だと思えます。

○田村座長：ただ、町田市の相原地区というのは、非常に限られたエリアですので、その中だけで病院のキャパシティを全部発揮するということは、なかなか現実的ではないと思われれます。

むしろ、私がお尋ねしたいのは、泰一会さんがお得意の整形外科の分野において、広域からの患者さんを診るという自信があるようでしたら、八王子の病院と競合する以外に、病院としてのアピールのポイントがあるのかなと思ったのですが、その辺はいかがでしょうか。

○永井（医療法人泰一会 理事）：私は、股関節が専門で、人工関節を年間300件ぐらいやっておりますので、全国で数えると上から何番目というぐらいの症例をこなした年もございます。

おかげさまで、この32年間、整形外科の臨床をやらせていただけてきて、かなり何でも対応できると思っていますので、その地域の状況に応じた治療をしていければと思っています。

もちろん、専門に特化した患者さんが来られれば、もちろんやりますが、そうでなければ、普通の外傷を中心とした病院にしていきたいと思っています。

○田村座長：例えば、股関節の手術にしても、整形外科を標榜している病院がどこでも、同じようなレベルでできるかという、そういう症例をたくさん経験しているところに患者さんも集まるだろうと思います。

そういった意味からすると、地域のどこかと競合するというよりは、南多摩の整形外科の中の一つの専門分野の拠点病院となれば、その地域の病院と棲み分けができるのではないかと思ったりしました。

今後病院が発展していく中で、一つの方向性として、地域での棲み分けを考えていくことができるのではないかと思ったものですから、その辺をお尋ねしたかったわけです。

○永井（医療法人泰一会 理事）：ありがとうございます。

勉強しながらやっていきたいと思っています。

○田村座長：ほかにいかがでしょうか。

田中先生、どうぞ。

○田中（陵北病院 院長）：あと、小児科の話ですが、地元の方から嘆願書が出ているということを、以前お伺いしました。

一般的に小児の救急というと、突然の熱とかけいれんとか腹痛といったものを連想すると思いますが、地域の皆さんも、そういったときに安心できる小児医療が受けられればと思っています。

八王子は、小児救急は充実しているかという、厳しい面があると思いますので、そういった面では、泰一会さんに充実していただけるとありがたいと思うんです。

「今後、ニーズに合わせて」とおっしゃっていますが、「整形外科に限って」という話にどうしても聞こえてしまっています。

専門に特化したスタッフと機材を揃えるのは簡単ですが、例えば、小児科に手を広げようとするれば、それに合わせた機材から、経験を持った医師と看護師が必要になってきます。

ですので、地域の皆さんが望んでいる小児の救急とマッチしているのかということについて、どのようにお考えでしょうか。

○永井（医療法人泰一会 理事）：整形外科65床で予定していますが、それ以外は、整形外科以外の病床を予定しておりまして、増減は多少するかもしれませんが、ニーズに合わせてやっていく予定です。

小児のほうも、当初は、外傷が中心になるとは思いますが、ニーズが高ければ、それに応じた医療をしていく予定です。

○田村座長：先ほど、東村山市でのご経験で、小児の整形の救急が、地域の中でニーズがあって、非常に歓迎されているということですが、同じような展開を、新病院においてもできるのではないかというお考えになっているということですね。

○永井（医療法人泰一会 理事）：はい。“けがホットライン”というものをさせていただいています。

非常によい連携がとれていると思っていますので、同じような連携ができればと考えております。

○田村座長：ありがとうございました。

ほかにいかがでしょうか。

安藤先生、どうぞ。

○安藤（副座長・東京都病院協会代表・八王子市医師会理事・永生病院理事長）：

八王子市医師会、町田市医師会のほか、相模原市医師会が、近隣医師会ということで、連携をとっているわけです。

泰一会さんの今度の病院は、ちょうどその真ん中辺りにあるということですから、今回は傍聴の方々からのご発言はできないということでしたが、東京都さんのほうで、ぜひこの3つの地域の皆さんの意見を聞いていただいて、どんな連携ができるかというようなことを集約して、その結果を皆さんにまた教えていただくといいかと思います。

あと、前回、泰一会の理事長先生が来られていましたが、お話がなかったので、理事長先生自ら、「こんなことをしたい、こんな連携をしたい」というようなお話を聞けたら、信頼関係がまた一步進むと思いますが、その辺はいかがでしょう。

○田村座長：安藤先生、ご提案をありがとうございます。

本日は非常に広域から、神奈川県からも傍聴していただいている先生方もいらっしゃいます。

今後議論を進めていく中で、具体的に「こういった機能を持っていただけるとありがたい」とか、「ここはちょっと難しいのではないか」とか、いろいろなお考えがあると思いますので、そういったご意見を寄せていただけると、前に進められるのではないかと思います。

あと、泰一会さんのほうも、きょういろいろ意見が出てきましたので、それに対して答えるような形で、きょうもいろいろ具体的な方針をご説明いただきましたが、それをさらに補足するような形のものをつくっていただけると、また少し前に進むかなという気がいたします。

「具体的にこういったところで、新病院が地域の役に立てると思っているので、その点を中心に頑張りたい」というようなことが、さらに聞こえてきますと、「そういったことを踏まえて、こんなことをやっていただければ」というような、前向きのお話が出てくるのではないかと思います。

ですので、そういった認識の中で話を進めていただければありがたいと思っております。

この場での議論はなかなか進みませんので、今後の進め方、課題ということで、ご了解いただければと思います。

ほかにいかがでしょうか。

右田先生、どうぞ。

○右田（右田病院 院長）：先ほどお話ししたつもりですが、確認したいことがあります。町田市の田中さんにお答えいただきたいと思います。

町田市の「市政懇談会」で、市民の方々が「医療機関が欲しい」とおっしゃったということですが、具体的な疾患とか、どういった領域の医療を充実してほしいという意見が出たのかということが分かれば、教えていただきたいと思います。

○田村座長：田中さん、お願いいたします。

○田中（町田市保健所 健康総務課担当課長）：具体的な診療科については、特段ご要望をいただいておりますので、こちらでは把握しておりません。

○右田（右田病院 院長）：ありがとうございました。

あと、今回の件とは別の話になりますが、基準病床数について、余りにも大雑把に、「不足している」とか「充実している」とかで数字が出てきています。

地域医療構想調整会議は、機能分化とか役割分担といったものを調整する会議であると認識しておりますので、高度急性期、急性期、回復期、慢性期のそれぞれについて、何が必要なのかということをもう少し細かく、「この地域に何が不足しているか」ということを調整していく会議であるべきかと思っております。

この点について何かお伺いできればありがたいと思います。

○田村座長：では、東京都からお願いいたします。

○岩井（東京都福祉保健局医療政策担当部長）：医療政策担当部長の岩井でございます。

右田先生、ご意見をありがとうございました。

今後のいろいろな算定の仕方とかにつきましては、これまでもいろいろな場で先生方からご意見、ご提案をいただいているところでございます。

今年度は保健医療計画の改定の年でもございますので、そういったところに合わせまして、どのような対応ができるかということ、しっかり検討してまいりたいと考えております。

○田村座長：ありがとうございました。

「新病院をつくりたい」という泰一会さんのご希望と、つくる以上は、どういった形で貢献できるのかということについて、もう少し具体的な青写真を示していただきたいという、地域の医療機関からの声がいろいろ出てきたと思います。

そういった声に答えられるような形で、いろいろな計画などを出してくださると、話は前に進むかなと思った次第です。

簡単に事を進めるのはなかなか難しいかもしれませんが、そういった声を踏まえて、引き続きいろいろ努力をしていただければ、道が開ける余地があるかなと、個人的には思っております。

それでは、ここで、東京都のほうからお願いいたします。

○遠藤（東京都福祉保健局医療政策部長）：医療政策部長の遠藤でございます。

本日は、大変お忙しい中、会議にご出席いただきまして、また、さまざまなご意見をいただきまして、大変ありがとうございました。心からお礼を申し上げます。

これまでのさまざまな疑問とか懸念に答えるということで、法人さんに追加説明をお願いするというので、資料をご用意いただきました。その資料に対して、きょうまた、その説明に対してさまざまなご意見をいただいたと承知いたしております。

先ほど、安藤先生からのご提案にあったように、きょうの議論は非常に貴重な意見交換ができたと思いますので、そのことについて、どうお答えさせていただくかということは、法人さんと東京都のほうでも、このあと、ご相談させていただき、できれば、なるべく早いタイミングで回答させていただきたいと思っております。

法人さんのほうも、病院開設を予定されているところまで、まだあと3年ございますので、この段階でどこまで詳細にお答えできるかというところはあるかと思えます。

130床のうちの65床は、得意の整形外科の病床に充て、残りの65床については、地域の医療ニーズを踏まえながら考えていきたいというお話いただきましたが、開放骨折等のような厳しい疾患については、東京都全域で貢献して頂けるのではないかと考えております。

また、敷地等が広いということで、災害時の医療救護所ですとか、PCR検査会場とかのさまざまな地域貢献のことについて、ご説明をいただいたところでございます。

皆さまからさまざまなご意見をいただく中で、いろいろなことを考えていただけたと思っておりますので、この場が本当に貴重な意見交換の場にさらになっていくように、法人さんのほうと調整させていただければと思っております。

最後に、右田先生のほうからも、この調整会議のあり方について、非常に大きな課題をいただけたと思っております。

2040年に向けて75歳以上人口が急激に増えていくタイミングですので、2040年の地域医療構想調整会議と医療需要の考え方ということになると思いますが、この会議のあり方を含めまして、都でも右田先生のご意見をしっかり受けとめて、今後どういう形で医療需要の算定や調整会議をやっていくかということを検討してまいりたいと思っております。

そして、冒頭に、土谷先生からも、「連携が重要だ」というご指摘をいただきましたが、そういう点も踏まえまして、皆さまと力を合わせて、地域医療の向上を図れるように努力をしてまいりたいと思っております。

本日は大変ありがとうございました。

○田村座長：ありがとうございました。

続いて、東京都医師会の土谷先生、お願いいたします。

○土谷理事：私からは、あと2つお話をしたいと思います。

1つは、冒頭にお話をいたしました。病床配分についてと、もう1つは医療連携の話です。

病床配分については、先ほどの右田先生のお話は全くそのとおりだと思っています。

機能別に4つに分かれていない病床配分をしていて、これは、東京都が悪いというわけではなく、国の制度に基づいてやっているわけですが、都道府県ごとに柔軟性を持ってやっていける余地があるのではないかと考えています。

例えば、機能別の配分とか診療科別の配分というところまで細かくするのは、技術的に難しいかもしれませんが、病床の配分のあり方の限界が、ここに来て出てきているものだと考えています。

「その限界をどうすればいいかということ、話し合いの場で調整してください」ということですが、私たちは非常に難しいことを課されていると思っています。

ただ、これにつきましては、先ほど、東京都のほうから、「第8次医療計画の改定に合わせて、いくらかでも反映できれば」ということでしたので、そちらのほうに期待するところです。

2つ目は、地域連携についてです。

きょうこうして話し合いの場が持たれましたが、もしこの調整会議がなかったらどうだったかということをお考えいただけたらと思います。

皆さんで意見交換することで、新規開業する病院さんも、地域はどういうものなのか、何が求められているのかということ、まがりなりにもお考えいただけたいと思います。

かつて、ほかの法人で新規に開設するとなったとき、八王子さんからいろいろな意見が出ましたが、今では医療の機能が発揮されているという例がありますから、今後も話し合いを続けていただきたいと思っています。

どういった形になるか分かりませんが、ぜひ話し合いを続けていただきたいと思っています。

本日はどうもありがとうございました。

○田村座長：ありがとうございました。

それでは、東京都のほうから、岩井医療政策担当部長、お願いいたします。

○岩井（東京都福祉保健局医療政策担当部長）：先生方、いろいろなお意見をいただき、どうもありがとうございました。

本日の意見交換の状況を踏まえまして、東京都といたしましても、引き続き地域の関係者の相互理解が図られて、連携関係の構築により、地域医療全体の向上に資するように、継続的な話し合いの場を持つことなどを検討した上で、今回の申請に対する病床の取扱いにつきまして、医療審議会にも報告してまいりたいと考えております。

本日はどうもありがとうございました。

○田村座長：それでは、予定されていた議事は以上となりますので、事務局にお返しいたします。

皆さん、どうもありがとうございました。

### 3. 閉 会

○奈倉課長：皆さま、本日は活発なご議論をいただきまして、まことにありがとうございました。

最後に、事務連絡をさせていただきます。

今回は臨時の開催でございましたが、定例の令和5年度の第1回目の地域医療構想調整会議を、また6月から7月に開催を予定しております。

こちらは、昨年度来続けております「外来機能報告に基づく紹介受診重点医療機関」の協議等の議事を行う予定としております。

開催の日程等が決まりましたら、改めて事務局からご連絡を申し上げます。

それでは、本日はこれを持ちまして、会議を終了させていただきます。長時間にわたりまことにありがとうございました。

(了)

本日の会議で扱いました議事の内容について、追加でのご質問、ご意見がある場合には、事前に送付させていただいておりますアンケート様式を使って、東京都あてにお送りください。

また、Web会議の運営方法等については、「東京都地域医療構想調整会議ご意見」と書かれた様式をお使いいただきまして、東京都医師会あてに、会議終了後1週間以内にご提出いただければと思います。

それでは、本日の会議は終了となります。長時間にわたりまことにありがとうございました。

(了)